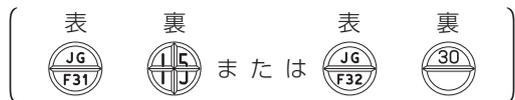


## ピオグリタゾン錠15mg/30mg[JG]を服用される患者さんへ



血糖値を下げる糖尿病の薬が、処方されています。

以下の点にご注意ください。

また、この注意は、必ず家族やまわりの方にも知らせてください。

低血糖症状を起こすことがあります

- この薬とほかの糖尿病の薬（血糖を下げる薬）を併用した場合に、低血糖症状を起こすことがあります。
- とくにインスリンとの併用で多くなることが報告されています。
- 低血糖症状が起こった場合は、**がまんせずに早目に糖分（砂糖、ブドウ糖など）をとってください。**ただし、<sup>アルファ</sup>α-グルコシダーゼ阻害剤（ボグリボースやアカルボース、ミグリトール）などの糖分の吸収を遅らせる薬剤を併用している場合には、**必ずブドウ糖**をとってください。
- 高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

低血糖症状や倦怠感、吐き気、食欲不振、むくみなど、この薬をのんで不快な症状が気になる場合は主治医に相談してください。

低血糖症状について

### ● 低血糖症状とは

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、力がぬけた感じ、発汗、手足のふるえ、眼のちらつき等が起こったり、また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違ったような異常な行動をとることもあります。



脱力感・  
異常な空腹感



手足のふるえ



発汗・動悸

### ● 低血糖症状が起こったら

- ・ 空腹時に起こり、食べ物をとると急に良くなるのが特徴です。
- ・ 低血糖症状がもし起こったら危険な状態ですから、軽いうちに治してしまわなければなりません。軽いうちは**糖分（砂糖、ブドウ糖など）**をとると治ります。したがって、日頃、常に糖分を持ち歩き、すぐその場で糖分をとれるようにしておくことが必要です。
- ・ 低血糖症状を起こした場合は、必ず早めに主治医に報告してください。

### ● 低血糖症状を起こさないために

- ・ 低血糖症状を予防するためには、薬の量や飲み方は主治医の指導を守り、また食事療法・運動療法はきちんと守ることが大切です。
- ・ 食事時刻を守り、激しい運動、空腹時の運動は避けるようにしましょう。

(両面ともご覧ください)

この薬の服用により、むくみ（浮腫）や体重の増加がみられ、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状がみられることがあります。とくに心臓の病気のある患者さんご注意ください。

次のような症状があらわれることがあります。

#### ● むくみ（浮腫）

むくみ（浮腫）のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状がみられることがあります。

#### ● 体重増加

体重の増加がみられることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。

#### ● 息切れ、動悸

体を動かした時に息が切れたり、動悸がする（心臓がドキドキする）などの症状があらわれることがあります。症状が進行すると、安静にしているてもこのような症状があらわれることがあります。



むくみ（浮腫）・  
急激な体重増加



息切れ



動悸

### むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状が起こったときの処置

むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状に気づいた場合には、本薬の服用を中止してください。そして、主治医に連絡をとるなどして、相談してください。

### とくにご注意くださいいただきたい患者さん

- 心臓の病気（心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など）を合併している患者さん
- インスリンを併用している患者さん

この薬が膀胱がんの原因と断定されたわけではありませんが、海外の研究でこの薬が膀胱がんの発症率をわずかにあげるとする報告があります。

- 膀胱がん治療中の方はこの薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、主治医に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、主治医に相談してください。
- くれぐれもご自身の判断で薬をやめないで、心配な方は主治医に相談してください。

#### ● 血尿

尿が赤くなることがあります（痛みを伴わない場合が多い）。

#### ● 頻尿

排尿の回数が多くなる場合があります。

#### ● 排尿痛

急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられることがあります。

そのほかに次のような症状があらわれることがあります。

- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい

これらの症状に気づいた場合は、主治医に相談してください。

（両面ともご覧ください）